

<認定農業者の育成を実施している事例>

○柑橘の島を守るために

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	おのみちし せとだちょう こうね 広島県尾道市瀬戸田町高根			
協定面積 88ha	田	畑 (100%)	草地	採草放牧地
	—	柑橘類	—	—
交付金額 1,013 万円	個人配分			0 %
	共同取組活動 (100%)	農地・農道水路管理費 (補修・改良含む)		85%
		鳥獣被害防止対策費		2%
		研修会費等		13%
協定参加者	農業者 105 人			

2. 取組に至る経緯

当集落（高根島）は、柑橘を主体に島全体でその栽培の推進を図ってきたが、年々、高齢化による荒廃園が増加するとともに、数年前からはイノシシによる農作物被害が深刻化し、将来に向けての持続的な農業生産活動に不安を抱く状況にあった。

そういった中、集落での話し合いの下、農地の維持と農業生産の安定化、さらには、地域の財産である柑橘産業を次世代へ継承するため、当制度を活用し、島全体が一体となって地域の活性化を図ることとした。

3. 取組の内容

平成17年度から当制度の取組みを開始したところであるが、これまでに、島内の農業者と非農業者が連携し、水路・農道の維持管理や深刻化するイノシシ被害対策として延長1.5kmに渡って防護柵を設置するなど、農業生産活動の安定化を図ってきた。

また、新品種導入により高品質・高付加価値果実生産に取り組むとともに、担い手対策として認定農業者の育成を推進し、新たに4名を確保してきたところである。

来年度は当制度の今期対策の最終年度となるが、現在、農道の補修改良を進めているところである。



水路土砂上げ作業



『イノシシ防護柵』設置作業

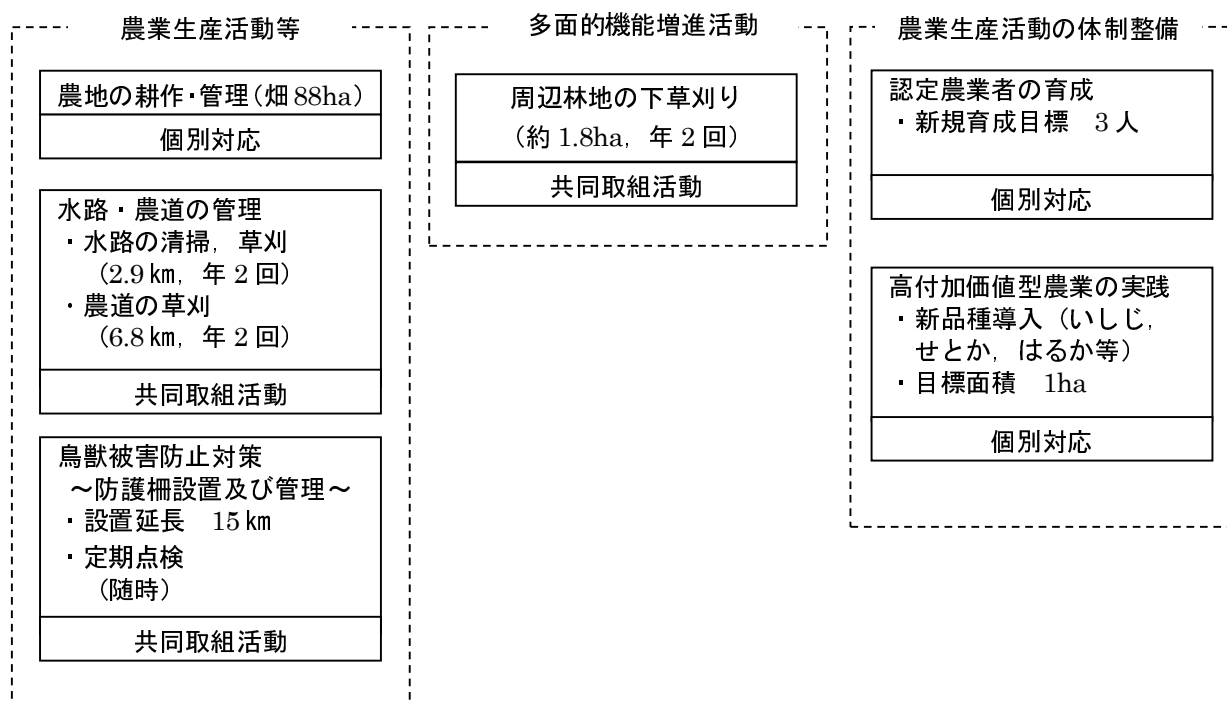
[集落の将来像]

非農家を含む島内の連携活動により、水路・農道等の維持管理や鳥獣害防止対策に取組み、農業生産の安定化を図る。また、高付加価値型農業の実践や担い手育成により、次世代に繋がる柑橘産業を確立する。

[将来像を実現するための活動目標]

- ・水路・農道の維持管理やイノシシ被害対策として島全体に防護柵を設置
- ・農地と一体となった周辺林地の管理
- ・新品種導入を進め、消費者ニーズに対応した付加価値のある柑橘栽培を実施
- ・集落の担い手として認定農業者を育成

[活 動 内 容]



《島内連携》

非農家と連携し、高根集落全体で水路・農道等の維持管理や鳥獣害防護柵の設置作業を実施

4. 取組による変化と今後の課題等

【集落の意識の変化】

- 共同活動による島民の団結力・連帯感の向上

【今後の課題・目標】

- 当制度を活用し整備した『防護柵』の維持管理と農地保全
- 将来を見据えた次世代育成と平場を含めた将来像の明確化

[平成 20 年度までの主な成果]

- イノシシ防護柵設置による農作物被害軽減 (設置延長 15 km)
- 高付加価値型農業の実践
～高糖度系みかん等の新品種導入～ (当初: 0 ha 目標: 1 ha H20 実績: 5ha)
- 認定農業者の育成 (当初: 14 人 目標: 17 人 H20 実績: 18 人)